

友の会 だより

No.18

2012年3月



特集

宮沢賢治

年表とともに歩む宮沢賢治の生涯

仰天、宮沢賢治の世界

友の会会員が作品を紹介します

宮沢賢治を読む

宮沢賢治の代表作を読んで

「銀河鉄道の夜」に向けて

寄稿

教えて！鈴木先生

「雨二モ負ケズ」を解く

宮沢賢治

雪のファンタジー大盛況

笛と朗読と灯かりが織り成す 幻想的な世界

平成24年2月11日(土)に宮沢賢治ファンタジーシリーズ第2弾、朗読と灯かりと笛による「雪わたり」が催されました。今回は初めての和の要素を取り入れ、細川康夫(ほそかわやすお)さんによる幻想的な灯かりをバックに、着物姿もあでやかな本祿和美(もとろくかずみ)さん、山本美智代(やまもとみちよ)さんにしるしの笛、能管の演奏をご披露いただきました。

当日は大雪続きのあとの奇跡的な晴れ間、まさに「雪わたり」ならではのシチュエーションの中、おなじみの五十嵐博美(いがらしひろみ)さんによる「キッククックトントンの掛け合いも楽しい朗読、プロジェクター

による堀内誠一さんの絵本画、音楽そして灯かりとぜひいたくなく四部構成でたくさんのお客様にご来場、お楽しみいただきました。



こどもの本を楽しむ会

平成24(2012)年度 子どもの本を楽しむ会

前年度に引き続き、今年度も仁愛大学教授の谷出千代子先生による講座を開講します。受講は無料です。

第1期 4月～8月 主に第3金曜日 午後7時～8時30分

4月20日(金) 絵本実践講座 乳幼児期向け

5月18日(金) 絵本実践講座 児童期向け

6月15日(金) 子どもの本の歴史的背景を読み直す

7月20日(金) 再び加古里子

8月24日(金) ジョン・バーニンガム(今立図書館)

第2期 9月～1月 主に第3金曜日 午前10時～11時30分

9月21日(金) 絵本と文字の関わり・五味太郎

10月11日(金) 心を伝えるマイケル・グレインエツ

11月16日(金) 素敵にあそぶ山本容子

12月21日(金) エルンスト・ヤンドウルの人間関係

1月18日(金) 喜び怒り哀しみ&楽しく長谷川義史

〈主な開催場所〉

越前市中央図書館 学習支援室(第 回のみ今立図書館)

〈講師〉

仁愛大学教授 谷出千代子 先生

〈対象〉

子どもの本に興味がある方、お待ちしております。

時間・場所などは変更する場合があります。詳しくは越前市中央図書館(0778(22)0354)までお問合せください。

宮沢賢治 関連年表

西暦	元号	年齢	できごと
1895	明28		日清戦争終結
1896	明29	誕生	三陸大津波（6月15日） 8月27日 岩手県稗貫郡里川口村（現在の花巻市）に生まれる 陸羽大地震（8月31日）
1898	明31	2歳	11月、妹トシ出生。 凶作。米騒動
1901	明34	5歳	6月、次妹シゲ出生
1903	明36	7歳	小学校入学 東京市内電車開業
1904	明37	8歳	弟清六出生 与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」 夏目漱石「我輩は猫である」
1905	明38	9歳	日露戦争終結
1906	明39	10歳	鉱物・植物採集、昆虫標本作りに熱中 東北大飢饉
1907	明40	11歳	小五、「石こ賢さん」と呼ばれる。 3月、末妹クニ出生 戦後恐慌
1909	明42	13歳	県立盛岡中学校入学。寄宿舎生活 北原白秋「邪宗門」 伊藤博文暗殺
1910	明43	14歳	岩手山に初登山。魅力に取り付かれる 柳田国男「遠野物語」 石川啄木「一握の砂」

仰天、宮沢賢治の世界

三田村善衛

詩人であり童話作家というのが宮沢賢治の肩書である。しかし、賢治にはいくつもの顔があつた。37年の短い生涯の中で、賢治は故郷の岩手において森羅万象と交感し、教育、農業、宗教、科学を融合して数多くの創作活動を行った。まずは彼のエキセントリックな境遇を年譜にして簡単に紹介していこう。

宮沢賢治は明治29年8月27日（戸籍の届け出は8月1日）に岩手県川口町（現在の花巻市）に生まれている。なんと彼の生まれる約2カ月前の6月15日に三陸地震津波が発生して岩手県に多大な被害をも

たらしている。さらに不思議なことには、賢治の生まれた直後の8月31日夕刻にも岩手・秋田は大地震に襲われている。いわゆる陸羽大地震である。

賢治の生家は質屋を営んでおり、じつは裕福な家庭であつた。質屋の息子であつた賢治は、度重なる冷害のために生活が困窮した農民たちが家財道具を売って生活資金を調達している姿を何度も目撃している。この罪悪感がのちに農民運動、自己犠牲精神へとつながっていく。

賢治は幼少の頃から「家なき子」などの童話に夢中であつたという。さらに小学校時代には、石や昆虫採集にも熱中しており、特に鉱石には目がなく、回りからも「石っこ賢

1911	明44	15歳	この頃から短歌を作り始める。 妹トシ、花巻高等女学校入学
1912	明45	16歳	石川啄木没 花巻に電灯がつく
1913	大02	17歳	寄宿舎騒動により、退寮。寺院に下宿 花巻に電話開通 岩手大凶作 中里介山「大菩薩峠」
1914	大03	18歳	盛岡中学校卒業 肥厚性鼻炎の手術、一ヶ月余り入院。看護婦に初恋
1915	大04	19歳	盛岡高等農林学校農学科第二部（のち農芸化学部）に首席入学 妹トシ日本女子大学校入学 岩手軽便鉄道全通
1916	大05	20歳	「校友会々報」に短歌発表 「化学本論」が刊行。座右の書となる アインシュタイン「一般相対性理論」
1917	大06	21歳	学内文芸同人誌「アザリア」発刊（6号、大正7年） 萩原朔太郎「月に吠える」
1918	大07	22歳	三月、農林学校本科卒業 四月、高農研究生となり、実験指導補助をつとめる 在京中の妹トシが肺を病む。看病のため上京し、翌春共に帰郷 室生犀星「叙情小曲集」 第一次世界大戦終結
1919	大08	23歳	妹トシ回復。ともに帰郷し、家業を手伝う
1920	大09	24歳	高農研究生修了 国柱会に入会 第一回国勢調査。内地人口5596万余

さん」などと呼ばれていたらしい。父と「我信念」という仏教講和に参加しているのもこの頃。

旧制盛岡中学時代にも鉱物採集に熱中していて、登山と共に水晶などを採集するのが日課だった。片っ端から哲学書を読み耽る。先輩の石川啄木の影響だろうか、短歌の創作も始めている。さらに宮沢家の方針で賢治には進学という道は閉ざされていた。盛岡中学を卒業して肥厚性鼻炎で入院、ここで看護婦に片思いするといふ楽しいエピソードもある。退院後も店番をするものの、あいかわらず悶々としていたので親もようやく進学を許したという。この時期、島地大等訳の「漢和対照妙法蓮華経」に大きな感銘を受けた。

盛岡高等農林学校にて地質調査研究に没頭する。また、友人らと同人誌「アザリア」

を創刊。短歌や小文を発表している。童話の創作を始める。肋膜炎を患った際には、自身の命は15年はもつまい、と語ったという。

大正8年、日本女子大生の妹トシが病に倒れる。賢治も東京にて看病する。この時期に萩原朔太郎の詩集「月に吠える」に感激する。大正10年、無断で上京。働きながら童話の製作に没頭する。トシ発病の知らせで帰郷。農学校の教師となる。翌年、トシ病死。

大正13年、心象スケッチ「春と修羅」を自費出版するも、まるで売れず大赤字。イーハトーブ童話「注文の多い料理店」を刊行。草野心平と親交を始める。北上川でバタグルミ（クルミの古種）の化石の学術調査に参加。

大正15年、農学校を退職。羅須地人協会を設立して農民芸術を説く。オルガンやセロを習う。こののちは農業指導

1921	大10	25歳	父と折り合わず、家出して東京へ 出版社でアルバイトをしながら国柱会で奉仕活動 童謡「あまの川」を「愛国婦人」9月号に発表 秋、妹トシ喀血 童話「雪わたり」を「愛国婦人」12月、1月号に 発表
1922	大11	26歳	11月27日 妹トシ永眠(享年24歳)
1923	大12	27歳	岩手毎日新聞に童話「外輪山」「やまなし」「シ グナルとシグナレス」「氷河鼠の毛皮」を発表 関東大震災
1924	大13	28歳	心象スケッチ『春と修羅』刊行 童話集『注文の多い料理店』刊行
1925	大14	29歳	普通選挙法案・治安維持法案可決
1926	大15	30歳	雑誌「月曜」に「オツベルと象」「ざしき童子の はなし」「猫の事務所」掲載 羅須地人協会設立 各種講習(セロやエスペラントなど)を始める。
1927	昭02	31歳	芥川龍之介が自殺
1928	昭03	32歳	過労のため体調すぐれず、年末に急性肺炎発病 第一回普通選挙(男子のみ)
1930	昭05	34歳	実家で療養の甲斐あり、全快
1931	昭06	35歳	発病し、死を覚悟するが帰宅して療養
1932	昭07	36歳	病床でも菜食を続け、衰弱が進む 満州国建国
1933	昭08	37歳	昭和三陸大地震(3月3日) 9月20日 急性肺炎の兆候 9月21日 容態急変、午後1時30分、永眠 ドイツでヒトラー内閣成立

参考文献

日本近代文学年表(小学館)
宮沢賢治(ちくま学芸文庫)

に打ち込む。

昭和3年、過労のために急性肺炎となる。実家において療養生活に入る。詩群「疾中」などを創作。昭和6年、一時的に回復して碎石工場技師として働くが、再び倒れる。「雨ニモマケズ」を書き留める。昭和8年9月21日、死去。生涯独身であった。偶然にもこの年の3月3日、三陸沖地震が発生して、大きな被害を被る。すなわち、賢治の誕生、最期の年に大きな自然災害が起こったことになる。地質学者でもあった賢治は、じつは地霊のおとし児であったのだろうか。

宮沢賢治の人生をざっと見渡しても、やはりただ者ではないことが伺えよう。やはり愛する妹トシの死が一番大きな影響力を持ったと思われる。さらに幼少の頃から慣れ親しんだ仏教の教えもあって、特

に法華経の影響も強い。すなわち慈悲をもって献身する、という考え方である。そのためか賢治の作品には特有の陰影が見え隠れする。近年ではエコロジーとの関連で語られることも多い。文中のイーハトブ(Hatobu イーハトブ、または Hatono イーハトブ)とは愛すべき郷土岩手を架空の理想郷として賢治が用いた造語である。賢治の作品における最大の持ち味は、これら自然との交感力にあるといつてもよい。科学者にして宗教家でもあった美の詩人、宮沢賢治はわずか37年の生涯ではあったが、まさに壮大な無限宇宙を描いて見せた。今後も岩手の聖人、宮沢賢治は、熊野の怪人、南方熊楠(みなかたくまぐす)と同様に、我々の生きる指針となり得るであろう。



賢治は一旦は完成したとみえる作品においても、常に加筆・訂正を繰り返していた。賢治は「永久の未完成これ完成である」という有名な言葉も残しているが、多くの作品は幾度もの修正の跡が見られる。これらの推敲の移行もまた賢治の作品の醍醐味といえるだろう。くわしくは「校本 宮沢賢治全集」（筑摩書房）を参照されたし。

なお、ここでは賢治の有名な童話を中心に簡単なあらすじ付きで紹介しておく。ちなみに賢治は音楽を愛し、楽器も演奏したというが、じつにリズムカルで素敵な文体も多く見られる。特に童話においてはユニークな擬声語（オノマトペ）をよく用いて個性的、かつ魅力的な世界を描き出している。

1923年 「岩手毎日新聞」掲載

やまなし

五月 グラムボンなる謎の生き物が、かにかのこもらの大きな関心事として話題に上る。小学生の頃、このグラムボンの音が愉しくて、何度も声に出しては、この得体の知れない生き物の様を各々が、それこそ自由に思い描いていた。小さないのちを食べるさかなとそのさかなを食べるカワセミに子がにたちは怯え、お父さんがそれを受けとめる。

十二月 月あかりの水の中。突然落ちてきた黒い円い大きなもの。カワセミと見まがい大騒ぎするが、その芳醇な香りにうっとりする親子。怖ろしいものも、美しいものも、美味しそうなものも、「いのち」はみんなきらきらと光をはらんでいる。(澄)

1921年 「愛国婦人」掲載

雪わたり

雪がすっかり凍ってどこまでもいける冬の日、四郎とかん子の兄弟が出会ったのは子狐紺三郎。狐はだますものと最初は警戒した二人でしたが愉快な掛け合いをしているうちにすっかりうちとけ、満月の夜の幻燈会に招待されます。そこで黍団子をすすめられた二人は…。

堅雪かんこ、しみ雪しんこ、キックキックトントン。子狐紺三郎と人間の子の軽やかな足取り、リズムカルな掛け合い、そして賢治独特のオノマトペ（擬音語、擬声語、擬態語）が楽しい一作。(杏理子)

1924年 童話集「注文の多い料理店」収録

狼森と笹森、盗人森

大昔、岩手山の麓が原始林だった頃、森に許しを請うて入植した4人の百姓たち。開拓が順調にいった1年目、子供が4人いなくなり、2年目は農具を隠され、3年目は栗を盗られて…。

その行方を知らないかあ」と百姓が問えば森は「知らないぞお」とぼけるものの「来い」と言われ森に入るとはたしてそこに探し物が…。森が本当に欲しかったものは…？

「ここへ畑おこしてもいいかあ」と問かければ「いいぞお。」と森が応える。自然の恵みに感謝した頃の人間と森とのやり取りが愉快でおおらかな作品。(杏理子)

1924年 童話集「注文の多い料理店」収録

注文の多い料理店

イギリス風の身なりの二人の青年紳士が猟に出て路に迷い、「山猫軒という注文の多い料理店」に入る。いろいろ注文を逆に店主からされ、自分のいいように解釈して従っていたが、最後は、喰われそうになる。その時、死んだはずの2匹の猟犬に助けられ、料理店も野原と化す。案内人もあらわれ、団子を食べたが、恐怖のあまりのくしゃくしゃ顔は元にはもどらなかつた。

純朴な田舎と自然に土足で踏み込み、金銭勘定しが感じない都会人、階級格差に対する反感であると著者も書いているが、自然を軽視するという人間の傲慢さは、今の時代も残念なことを引き起こしている。(M)

よだかの星

「夜鷹」その鳴き声と羽の強さから、その名を受けたものの、本来八チドリやカワセミの仲間。美しい仲間とは対照的な醜い姿。その姿と名前負けにより、二重三重の責め苦を味わう。

灼けて死んでもかまいません。私のような醜いからだでも灼けるときには小さな光を出してしよしよ

強靱なその羽で、オリオン・大熊・わし座と夜の空を力の限り飛び進む。力つきてもなお。何をあいても死守しなければならぬもののために。読む者はいつ知らず「よだか」になっている。のどの奥でもがく甲虫を呑み込む己も、醜く弱い己も、何ものにもかえることのできぬ己である。(澄)

どんぐりと山猫

あした、めんどろなさいばんしすから、おいでんなさい。とびとくもたないでくなさい 山猫ノ聲

愉快な山猫からの葉書をもらった一郎が大喜びで辿りつくと、そこでは赤ズボンをはいた金色のどんぐり達がそれぞれ自分が一番偉い大騒ぎ。困り果てた山猫に一郎は「この中でいちばんばかで、めっちゃめっちゃで、まるでなつてゐないよ、うなの、いちばん偉い」と云いわたすよう助言します。お礼の黄金のどんぐりを手に一郎は帰途につきますがそれは普通のどんぐりに変わり、山猫からの便りももつ来ないのでした。(杏理子)

蛙のゴム靴

松や檜の木の林を深い堰(せき)が流れ、茨(いばら)やつゆ草等の繁る自然広がる中で、三匹の蛙が「雲見」をしています。雲が平たく崩れていく様に蛙三匹は理想と永遠の生命を感じます。豊かな環境を背景に、理想的な蛙、人間関係を思わせる場面からの始まりです。主役は雲見の三役。自分だけゴム靴を手に入れた傲慢(ごうまん)なカン。嫉妬して報復を図るブンとベン蛙。結局は共に穴に落ちてしまひ、九死に一生を得るといふ哀れな結末。

巣くう心の醜さを浮き彫りにするが、賢治独特のユーモアが全編に散りばめられていて面白い作品です。(多崎)

銀河鉄道の夜

ケンタウル祭の夜、暗い夜の丘に立った孤独な少年ジョバンニの前に突如現れた銀河ステーション。天の川の左岸を南十字星に向かう銀河鉄道に乗り込んだジョバンニがふと隣を見るとそこには親友カシバネルラの姿が…。白鳥の停車場やわしの停車場、さそりの火を通り過ぎ、様々な人と出会い、別れ、どこまでも行ける切符を手に二人一緒の銀河の旅は続いていくかと思つたのですが…。

大事な人を失う物語、そして銀河は黄泉の道。哀しくも幻想的な物語です。(杏理子)

セロ弾きのゴーシュ

ゴーシュは町の映画館でセロ(手エロ)を弾く係り。あまり上手でないため、楽長に叱咤されてばかり。

ぐったりして自宅に戻るゴーシュの元に、毎晩動物が現れてセロを聴きたいと申し出る。ねこやかっこうに、うまく弾けない点を指摘され怒るゴーシュだったが、知らず知らずのうちに音程やリズム、曲に感情をいれることを理解していく。

物語の最後「ああ、かっこう。あのときはすまなかつたなあ。おれはおこつたんじゃなかつたんだ。」というゴーシュのつぶやきは外に向けた自尊心から抜け出した瞬間の言葉だろうか。

自らもセロを弾いた作者の姿が重なる作品である。(長)

風の又三郎

3月の風が強い日、山間の小さな小学校に一人の転校生・高田三郎がやってきたことから、お話は始まる。突然現れた転校生に、子どもたちは、地元で伝わる風の神風の又三郎だと騒ぐ。

三郎の周りでは次々と不思議なことが起こり、ある日突然、三郎は皆の前からいなくなってしまう。風とともに現れ、去っていった三郎は、伝説の又三郎だったのだろうか。

現実と空想の世界が交錯して、戸惑つ、常識的な人物として一郎が登場しているが、彼すらも「なにが本当なのか」半信半疑でいる様子が伺える。

1989年に映画化され、美しい風景と共に賢治を一挙に有名にした。(長)

「銀河鉄道の夜」に向けて

三田村善衛

宮沢賢治の代表作ともいえる「銀河鉄道の夜」は蒸気機関車が銀河の果てを飛んでいくという、じつに壮大で荒唐無稽な物語である。ところが読んでみると、この作品は死後の世界を描いていることがすぐにわかる。この列車にはいろんな人達が乗り込んでくるのだが、彼らはす

べて死者であり、これは天国行きの列車なのだ。

ジョバンニという少年が野原でうとうとしていると、「銀河ステーション、銀河ステーション」という声がして、そこに汽車がやってくる。彼はそれに乗り込んでしまうのだが、中には親友カムパネルラが乗っていた。じつはカムパネルラは亡霊で、いじめっ子のザネリが川でおぼれそうになって、彼を助けようとして自分が溺れ死んでしまったのだ。ジョバンニはようやく

銀河鉄道の旅が何であるかを悟るわけだが、物語の自身はキリスト教、仏教いずれからの解釈も成り立つ。さらに列車にはいろんな人物が乗車してくるが、それぞれのプロットもじつに象徴的だ。仏教の輪廻思想やキリスト教の自己犠牲の献身も見事に描かれている。賢治は「慈悲」も「隣人愛」もすべてをこの物語の中に導入しているのだ。世界中でも人気のあるこの物語は、まさに宮沢賢治の愛と、宇宙の根源の法則がテーマなのだろう。

ちなみに主人公の名前のジョバンニは、イタリアの洗礼名のラテン語のヨハンネスに由来していると言われているし、カムパネルラは神学者のトマソ・カンパネッラからとったとも言われている。さらに面白いのは、トマソ・カンパネッラの幼名はジョバンニ・ドミニコだという。

注目すべきは宮沢賢治の描く宇宙の風景だろう。銀河の水については「そのきれいな水は、ガラスよりも水素よりも透きと



ほつて」とあるし、「この砂はみんな水晶だ。中で小さな火が燃えている・・・」などはよく指摘される箇所ではあるが、他にも「金剛石や草の露やあらゆる立派さをあつめたような、きらびやかな銀河の河床の上を・・・」など、幼い頃から鉱物に異常なくらい関心を示していた賢治らしい、じつに美しい表現である。

さらに、ジヨバンニが車掌に切符の提示を求められて、ポケットの中の紙切れを見せたところ、車掌が「これは三次空間の方からお持ちになったのですか」とたずねられるシーンがある。しかも登場人物は列車の中に突然姿を現したり、いなくなったりもする。いわゆる瞬間移動、レポートである。列車そのものも、まるでワープ移動のような動きをしている。アインシュタインが一般相対性理論を発表したのは大正5年のことである。賢治は20歳の頃から「化学本論」を熟読しており、すでに原子物理論やエネルギー論に精通していたようである。賢治は自らの

作品を「四次元感覚」「幻想第四次」と称していた。盛岡高等農林学校時代の休日には、もっぱら地図、コンパス、ハンマー、星座表を携えて山野を放浪していたというから、コワイ。

もつと驚きなのは、登場人物の中に12歳くらいの女の子、6歳くらいの男の子、その家庭教師の青年がいて、彼らも列車に乗り込んでくるのだが、その経緯を引こう。青年いわく「霧が深く、船が氷山にぶつかって沈みましてね・・・ボートにはみんな乗り切れなくて・・・他の小さな子どもたちを押しつける勇気がなかったのです。このまま神のみもとに行く方が幸せだとも思いました。私はこの二人を抱いて渦に巻き込まれました・・・(大意)」しかも文中には、大きな海はパシフィックで、氷山、風や凍りつく潮水、烈しい寒さ・・・とあるから、沈んだ船の名前はあの有名な「タイタニック号」と判明するのだ。こうなってくると、この物語は今でこそ単純な童話と見なされ

てはいるが、そのじつは巷のSF物語や幻想小説以上の内容を含んでいることがわかりだるう。

作中に面白いキャラクターが発見出来る。鳥を捕って売る人が登場してくるが、彼もすでに死んでいてこの列車に現れるのだが、途中下車してあいかわらず鳥を捕り始める。釈迦が言うところの、極楽に行けずに何回も現実の「苦の世界」に舞い戻ってしまう設定である。要するに何度、生まれてきても目の覚めない困った人なのである。ちなみに僕なども列車から骨董屋さんが見えたら、すぐに降りてしまっただろう。ましてや店内に石皿でもあろうものなら、性懲りもなくまた買ってしまっそうな救われないタイプだ。(笑)さてさて、ところでどっちがシアワセなのだろうか。

最後に、松本零士のおなじみの漫画に「銀河鉄道999」というのがある。松本氏は戦艦だ

けではなく、蒸気機関車をも宇宙空間に飛ばしてしまった。我々はその作品をパクリなどではなく、松本氏の宮沢賢治に対するオマージュとしてとらえたいものだが、以前に松本氏は「銀河鉄道999」の主人公、星野鉄郎のセリフを某歌手に盗作されたと抗議した事件があった。じつは漫画の中のフレーズ「時間は夢を裏切らない 夢も時間を裏切ってはならない」が、作詞中の「夢は時間を裏切らない 時間も夢を決して裏切らない」にそっくりだという抗議である。松本氏は、「このセリフは私のスローガンのような言葉だ」と主張した。のちのち、歌手サイドが松本氏に謝罪をしてこの事件は終結したようだが、なんとこれにはまだ後日談があって、宮沢賢治研究家の一人がこう語ったという。「あのフレーズは、賢治の詩集の中にそっくりそのままありますよ」と。天国の賢治本人は立腹するどころか苦笑していたのではないだろうか。

おしえて!! 鈴木先生

回答者 鈴木晴代氏
(元・京都ブックトークの会代表)

Q

小学校の読み聞かせやブックトークで、宮沢賢治のものをという依頼を頂くことがあります。そのときに、いつも悩まされるのが言葉の難しさと、文章の長さです。限られた時間で、賢治ワールドを存分に伝えるために、なにか心がけておくことはないでしょうか？



まずは、宮沢賢治に限らずどんな場合にも言えることですが、紹介する本をしっかり読みこんで自分のものとし、紹介者自身がその作品を好きであることが大切です。作品の背景や、作者について、周辺の評論や作家論などにも目を通すと自身の興味と理解が深まります。それは語らずとも、作品の味わいとして聞き手の子どもたちにも届きます。

難しいからと解説や語彙の説明や言い換えを多用することは感心できません。松居直がその作品『桃源郷ものがたり』のあとがきで幼年時代の思い出を語っています。3月に床の間に掛けられる桃の花の咲く風景画を「何

という絵？」と父親に尋ねると、「プリヨウトウゲンという絵だ」と答えたそうです。漢字は勿論、意味もわからず音だけを記憶したのですが、中学3年の時、漢文で陶淵明の『桃花源記』を学んだ時、あれが【武陵桃源】だと知ったというのです。その時はわからなくても、美しいものと共に心に残った言葉をやがて自分の力で理解していくことは学びの大きな喜びにつながります。

それでも、もっと子どもたちに興味を向けてほしい時、現代の子どもたちでも興味を持つことを手掛かりにアプローチすることで、等身大の身近な作品として賢治の世界を伝えることができます。例えば、天文・地学・地質学にも詳しくあった賢治の作品にはいろいろな鉱石が登場します。そこで、【石】に注目して賢治の作品を紹介する…といった工夫で子どもたちの興味を喚起して作品世界に導きます。子どもの頃から石集めに夢中で、周りからは【いしっ子けんちゃん】と呼ばれていたという、そんな小さなエピソードを添えて紹介すれば、【石】大好きの子どもたちが【石】を入り口にして賢治作品に興味を持ってくれるわけです。

《会員の声をきかせてください》

友の会は、会員みなさまのものです。会報を読んだ感想やご意見、また、イベントのアイデアやヒントなど、会員の声をどうぞお聞かせください。また、思い出の写真がありましたら、紹介文や思い出(200~400字程度)とともにお送り下さい。会報に掲載させていただきます。その他、寄稿や、図書館にまつわるおはなしなど、どんなものでも結構ですので、下記までお送りください。お待ちしております。

あて先

〒915-0832 越前市高瀬二丁目7-24
E-Mail : tomonokai@lib-city-echizen.jp
越前市立図書館「友の会だより編集委員」

雨ニモマケズ
 風ニモマケズ
 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
 丈夫ナカラダヲモチ
 欲ハナク
 決シテ瞑ラズ
 イツモシツカニワラツテイル
 一日ニ玄米四合ト
 味噌ト少シノ野菜ヲタベ
 アラユルコトヲ
 ジブンヲカンジョウニ入レズニ
 ヨクミキキシワカリ
 ソシテワスレズ
 野原ノ松ノ蔭ノ
 小サナ萱ブキノ小屋ニイテ
 東ニ病氣ノコドモアレバ
 行ツテ看病シテヤリ
 西ニツカレタ母アレバ
 行ツテソノ稲ノ束ヲ負イ
 南ニ死ニサウナ人アレバ
 行ツテコハガラナクテモイイトイヒ
 北ニケンカヤソシヨウガアレバ
 ツマラナイカラヤメロトイヒ
 ヒデリノトキハナミダヲナガシ
 サムサノナツハオロオロアルキ
 ミンナニデクノボートヨバレ
 ホメラレモセズ
 クニモサレズ
 サウイフモノニ
 ワタシハナリタイ

(一部、文字改め)

「雨ニモマケズ」を解く

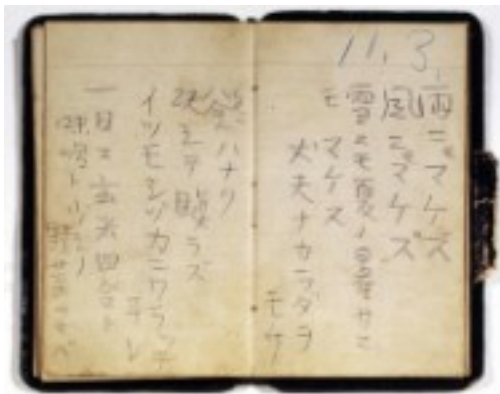
宮沢賢治の有名な詩(！)である。この「雨ニモマケズ」は賢治愛用の手帳に鉛筆によって書きとめられたもので、筆者は実物の皮装の手帳を目にしたことがあるが、左開きのものを裏表紙側から書かれている。この詩が作られたのは昭和6年のことで、最初のページの上部には11/3という日付らしきものが入っている。おそらくは11月の3日に書かれたものだろう。当時の賢治は死に直面していたといっても過言ではなかった。詩作「疾病」は昭和3年から5年までの急性肺炎の病床の作品だし、「手帳より」も昭和6年9月に東京で再び病に倒れてから帰省して病床にいた同年暮までに手帳に書き残されたものである。ちなみに賢治は昭和8年の9月21日に亡くなっている。したがって、この詩は賢治自身の堅い決意、意志表明のようなニュアンスではなく、どちらかというところを直前にしたオロオロした心情ととらえるべきだろう。

さらに注目すべきは、この作品だけは全編が片仮名で書かれており、数多くの詩を残した賢治には極めて珍しいスタイルである。果たしてこれが詩なのであるのか。筆者はこれを賢治の覚え書き、メモの類だと思っている。草野心平もこれ

については「詩作品としての完成をねらったわけのものではない。これは死期を前にしての、これから生きていく自分の自戒言、あるいは修身言と見るべきだろう」と語っている。

不幸にもこの詩の冒頭の二行だけが一般に浸透しており、賢治には何やら苦行と我慢のイメージが強いが、実際は死に際の壮絶な叫びののちに書き留められた最後の望み、嘆きにも近い賢治自身の吐露なのだろう。賢治はもともと病弱な体質もあつたが、ある時期からベジタリアンとなり、それも体力の衰えに拍車をかけたとする説も少なくない。

(勅使河原麗美・詩人)



林風舎所蔵「雨ニモ負ケズ」直筆手帳

編集注：今号の「宮沢賢治」の名前表記は全て「宮沢」で統一させていただきました。

日野川の「赤い石」と丹生の郷



赤い石
『ブックカフェゴドー』HPより

日曜日の朝、越前市の街中で開かれている小さな骨董市に出かけてきた。その広場の中ほどにある店には片手に持てるくらいの大サイズの赤い石や薄緑の石がいくつか並べられていた。骨董屋もいよいよ売るものになくなって、日野川の河原の石を並べにかかったのかなと、まるでこの街の行く末のような予感がして暗澹たる気持ちになった。ために赤いその石の値段を店のおやじに聞くと千円だというのである。何故、日野川で拾ってきた小さな石が一個千円もするのか理解できず、怒り顔でその場を離れ帰路に就いた。

しかしその赤い石がちょっと気になって、その日の午後、訪ねてきた若きB君に三百円渡してその金額で石を購入してくれることをお願いした。「骨董屋が一個千円だという品物を買いにゆくのには何故三百円しかお金を手渡してもらえないのか、私にはわからん」と深く悩みながら、若きB君は骨董市の開かれている広場にいそいそとでかけていった。

お金の話や重みのあるお話はさておき、若きB君が「蔵の辻」で値切りたおし、持ち帰ったこの石には、私におぼろげな記憶がある。これはもう随分前には日野川水系の河原でも拾うことが出来た「日野の赤石」であると思われた。この石からとれる粒子は古代中国では、辰州で産出されていた赤色の辰砂である。この辰砂には丹（に）と呼ばれるベンガラが含まれる。この丹は初期の源氏物語絵巻で使用された朱色の泥絵具の原料であり、大変高価な顔料として唐から持ち込まれていたものである。また日本列島では7世紀、金、銅などの採掘に長けた渡来系の人々の新たな流入により各地に鉱山が開かれ、貨幣の鑄造など、価値の変動

もあり、大きく時代が流動した。

将に、この丹（に）の産出される場所が丹生（にゅうぐん）である。若狭の遠敷郡（おにゅうぐん）など日本の各地に丹生という地名がみられるが、丹が生まれ、武が生まれた越前国は7世紀前後には泰澄大師など高句麗や百濟、新羅からの仏教と海運に長じた渡来系の人達により席卷されたと思われる。

話しは変わるが先日、越前市の丹生の郷、高森地区に出かけてきた。田畑の耕地整理が進んでいないこの地区の竹藪や小さな森、そしてそのまわりの水路が前から気になっていたからである。工事関係者でもないのに、なぜか懐かしく思われ、時々このあたりに来ると車を止めて、この森や越前市のなだらかな眺望を楽しんでいた。

この日も午後、横根観音の方まで出かけてきたので、近くのこの森を尋ねた。車を脇に止めて、うろうろとあたりを散歩していた折、森の下の大らかな屋敷の屋根に、竹ぼうきを持ったひとりの老人を見つけた。その老人は屋根に落ちた櫛の葉を掃いているようであった。年寄りが高いところに登って落ちたら大変だなどと思い、声をかけるのをためらったが、思い切って話しかけてみた。

「この近くに武生の高校に行っていた石山さんという方の家はありますか」と。

ところがこの屋根の老人が私の探していた同級生の石山君であった。つまるところ石山君と同じく私も老人であったわけであるが、この小さな森の中に住む同級生によると、この地区は江戸時代將軍徳川吉宗の天領であったという。そこで古文書が何かないか尋ねたところ、昭和初期に蔵が燃えてしまっていないということであった。私はこの高い森のあたりが武生古代史の要の地であると密かに思っていたので、村の長でもあった石山家の古文書の焼失には深く落胆した。

またここ高森には、継体天皇の出自でもある大々杼（おおおど）一族とゆかりの武甕槌（たけみかずち）神社も鎮座している。中世の高森陣屋などの遺構なども見られるが、いまだ耕地整理などなされていない森近くの水路などの繊細な構造は、なぜかなつかしく、昔から変わらず農耕に適する水の工夫がなされてきたのではないかとも思われた。

栗波和夫

（ブックカフェゴドー店主・

武生クラフトセンター代表）

YA倶楽部

YA倶楽部の活動から

十代の読書活動の推進を目的とした活動を行う「YA倶楽部」、毎月の例会では、会報「YAクラブ通信」を発行している。この通信は、中央図書館の他、市内各小中学校および、メンバーが通う高校の図書室に掲示してもらっている。内容は、その時期に応じたメイン記事、メンバーによるかなり脱力した座談会、YAの活動の様子を紹介した四コマ漫画の三本立てが基本形だ。今回は、その中から四コマ漫画を紹介しよう。

四コマ漫画の構成は、文章と同じく起承転結である。毎月の活動の内容からネタを拾って、その場でマンガにしていくのは、なかなか大変なので、担当するメンバーは、例会の最初から、何か面白いことが起こらないか、常に目を光らせているので、油断出来ない。このコーナーは、反響がよく、固定ファンもいるらしいので、書き手も意欲がわくようである。

4コマまんが

YAの日常





「男と女」

クロード・ルルーシュ監督(1966年作品) 102分



正月休みのときだったか、いつも夜中に目が開くとつけるテレビのどこかのチャンネルで「男と女」をやっていた。ああ昔、見逃した映画だなあと思ってしまった。眺めていたら、そのしやれた映像に引き込まれてしまい、例のフランシス・レイ作曲、タリーラー・シャバダバダ シャバダバダのメロディを聴くはめになってしまった。『たちきれぬ過去の想いに濡れながら 愛を求める永遠のさすらい……その姿は男と女』というのが1966年に日本で劇場公開された時のキャッチコピーだそうである。当時のフランス映画は「ヌーベル・バーグ(新しい波)」と呼ばれる若手の映画監督の作品が登場し、ジャン＝リュック・ゴダールやフランソワ・トリュフォーらが活躍。アラン・ドロンやカト

リーヌ・ドヌーブらが出演する、いわゆる商業映画の枠に収まらない作品として人気を集めた。「男と女」はそのどちらともまた違う味がある。

スタントマンの夫を撮影中の事故で亡くした女と、妻に自殺されたカール・サーの男が、寄宿舎にいる互いの子どもを通じて知り合い、次第に惹かれていく。しかし、過去を引きずる二人は、苦しさ募っていく。モノクロの映像とカールの映像が何か意味ありげに、印象的に切り替わって映画は進んでいく。何か監督の意図があるのかと思っていたが、別編のメイキングビデオで、資金不足のためと分かりどつと疲れる。監督がハンディカメラを駆使して撮影もこなしたこの映画は、カンヌ国際映画祭パルム・ドールとアカデミー外国語映画賞を受賞。クロード・ルルーシュの出世作となった。深夜テレビ映画ファンは、眠れぬ夜必見の映画である。(K弟)

初夢

正月に今立図書館のことを考えた。

まず、簡単な概要から、昭和58年度に新築され、歴史民俗資料館が併設され、平成17年度の合併後、越前市今立図書館として現在に至っている。蔵書は10万冊を越え、平成22年度は4万8千人余りの来館者、7万5千冊余りの貸出しを行っている。

地域のボランティアの皆様の積極的なご協力とご理解を得て、毎週土曜日には児童向け行事、月初めの金曜日には幼児向け、また第4水曜日の大人の読書会などの行事を定期的に行っている。夏には人形劇、冬にはクリスマス会などの行事も行っている。今後も、継続していききたいと思う。

今立の歴史と風土にあった、住民に信頼される図書館を目指して、職員一同研鑽を積んで、行ってみたい、夢のある、わくわくする図書館、利用者の書斎として、利用しやすい図書館に一步一步近づけて行きたいと思う。特に児童書については充実を図りたい。

「人に出会う」「自分に出会う」「本に出会う」そんな図書館になっていた。初夢である。

今立図書館長 上野 巖

挨拶とお礼の言葉

越前市立図書館長 楠 宏彰

この度、一身上の都合（家事都合）により越前市役所を退職させていただくことになりました。

図書館長に就任してたった1年という短期間で職を辞することに対し、大変申し訳なく思っています。

辞職に際しては、何人かの竹馬の友や役所の親しい同僚にも相談し、熟慮いたしました。しかし、100%市役所の仕事に打ち込む態勢が取れない家庭環境に居る以上、図書館長という組織の長で居続けることは非常に具合が悪いと判断しました。

在職中、図書館友の会の皆様はじめ、図書館関係の方々には暖かい励ましのお言葉や助言などをいただき誠にありがとうございます。

図書館友の会が、今後も「目の覚めるような」素晴らしい企画で市民の読書推進に取り組まれる事を祈念いたします。

これからも、町の何処かで見かけましたら気軽に声など掛けていただきませうようお願い申し上げます。

季節の日記 く忘く

(文・O2)

物忘れ、置き

忘れ、度忘れ、聞き忘れ、確認忘れ、忘れ物。

このごろ忘れることが多くて、困ります。

特に困るのは、置き忘れ。ついさつきまであったのに、もう分らない。ライター、

たばこ、仕事の書類、筆記具。日曜大工をすれば、道具がことごとく消えていく。

次に困るのが、人の名前。ある程度親しくしている人の名前まで忘れる始末。芸能人の名前くらいなら問題ないのですが、普段から顔をあわせている人には失礼で、誤魔化すのが大変。

脳疾患によるものか、アルツハイマー型か、加齢によるものか。

女房は、

「病院で脳の検査を受けたら？」
とヤサシイ言葉……。



「追い討ちをかけるように、
「耳も聴こえにくいんじゃない？」

違います、耳が聴こえにくいだけでなく、子どもや女房の会話は、略して短い言葉が多く、理解できなくなっているのです。（要は、察することができないみたい。）

悲しいことばかり書きましたが、忘れることの嬉しさ、安堵感も感じられるようになりました。

人に裏切られたこと、意地悪されたこと、憎んだこと、つまり嫌な思い出を忘れ始めています。これは、とても自分の心を優しく穏やかにしてくれています。

「忘」という漢字、「心を亡くす」と書くんですね。でも忘れることで心から憎しみや恨みが消えていくのは、決して心をなくすことではなく、むしろ心を育てることがかもしれません。「忘」ではなく、「創心」とかいて「ワスレル」になりたいものです。

わたしの脳みそは、毎日が忘年会です。

図書館友の会 行事案内

編集後記

雪わたり 天候や各出演者との交渉などまさに薄氷を踏む思いです。すめて参りましたが、おかげさまで無事渡りきることができ、感無量です。

(杏理子)

これからもマニアも初心者も楽しめるような特集を目指したいと思います。作家、ジャンルを問わず、もちろん映画などサブカルも含めたわくわく、ドキドキ号を!

(Y)

大震災の日から、ようやく1年が過ぎようとしている。式典での皇后様の黒喪服のお姿からも深いお気持ちを感じ取ることができる。宮沢賢治と度々の震災との間にも何らかの所以があるという。〔三田村氏の原稿・今号3P~5P参照〕最近とくに、人の気持ちがありがたいと感じる。

(M)

「あきらめなければ夢はかなう」と誰かが言っていました。夢がかなうようにがんばりたいと思います。

(上野)

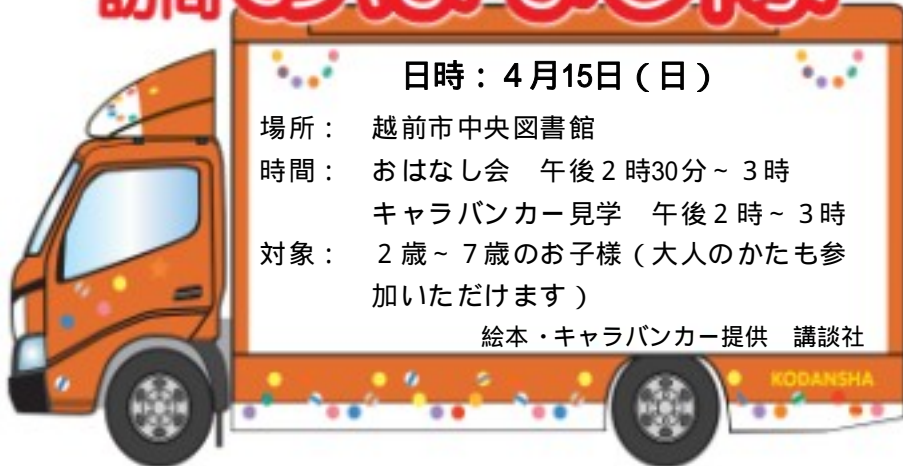
「季節の日記」(今号15P参照)に共感と癒しをいただきました。折しも季節は節目を迎え、民族の大移動が始まろうとしています。どうぞ皆様心健やかに生きていきますように。

(長)

暖かい日が続き、たくさんあった庭の雪も徐々に減ってきました。春の訪れが目で見えるという面では、雪国も悪くないかも...と思えるのも春だから、でしょうか。

(ヤ)

本とあそぼう 全国訪問おはなし隊



越前市図書館友の会・越前市立図書館 共催事業 アースデイ古本市

「ご家庭で眠っている本ありませんか？」

愛着があつて捨てられない、でも誰か読んでもらえる人に譲りたい、なんて本はありませんか？図書館友の会では、そんな本を集めてリ・ユースする「古本市」を今年も開催します。古本市で他の方にお譲りしたい本がご家庭にありましたら、是非図書館までお持ち下さい。

なお、古本市の本は、図書館友の会の活動費用に充てるため、一部有料配布させていただきます。

日時

平成24年4月22日(日)

アースデイ越前2012にあわせて開催します。

越前市今立図書館周辺にて

当日の天候次第で中止になる場合があります。今立図書館(電話4310229)までお問合せください。

越前市図書館友の会

《連絡先》

《住所》

《電話/FAX》

《Email》

越前市中央図書館

915-0832 越前市高瀬二丁目7-24

0778-22-0354 / 0778-21-2001

tomonokai@lib-city-echizen.jp

